

第3回 九州圏広域地方計画有識者会議(令和5年4月18日書面開催) 議事概要

※「○」は意見・質問等の発言。「⇒」は「○」に関連する意見等

■議事 (1)新たな九州圏広域地方計画骨子(素案)について

- アジアの成長センターとしての九州の位置付けについて、SDGs、ESG 投資、DX、カーボンニュートラルなど、次々と新たなコンセプトが紹介される中で、それらに沿っての対応が求められている。「環境の変化を的確に捉えて、さらにその変化を競争力に繋げることで、成長を促す」といった表現も必要。
- 「国際交流」ではなく「国際競争力の強化」に焦点をあてるべきではないか。相対的に激しく国際競争力を失っているわが国の状況を鑑みると、このままでは単純な「国際交流」さえままならない状態になる。骨子(素案)概要についても同様。
- 九州経済連合会が策定している「九州将来ビジョン 2030」にある『共生・共感・共創』のキーワード(特に共創)を含めた方が、計画の推進主体が市民であることが打ち出せるのではないか。

以上